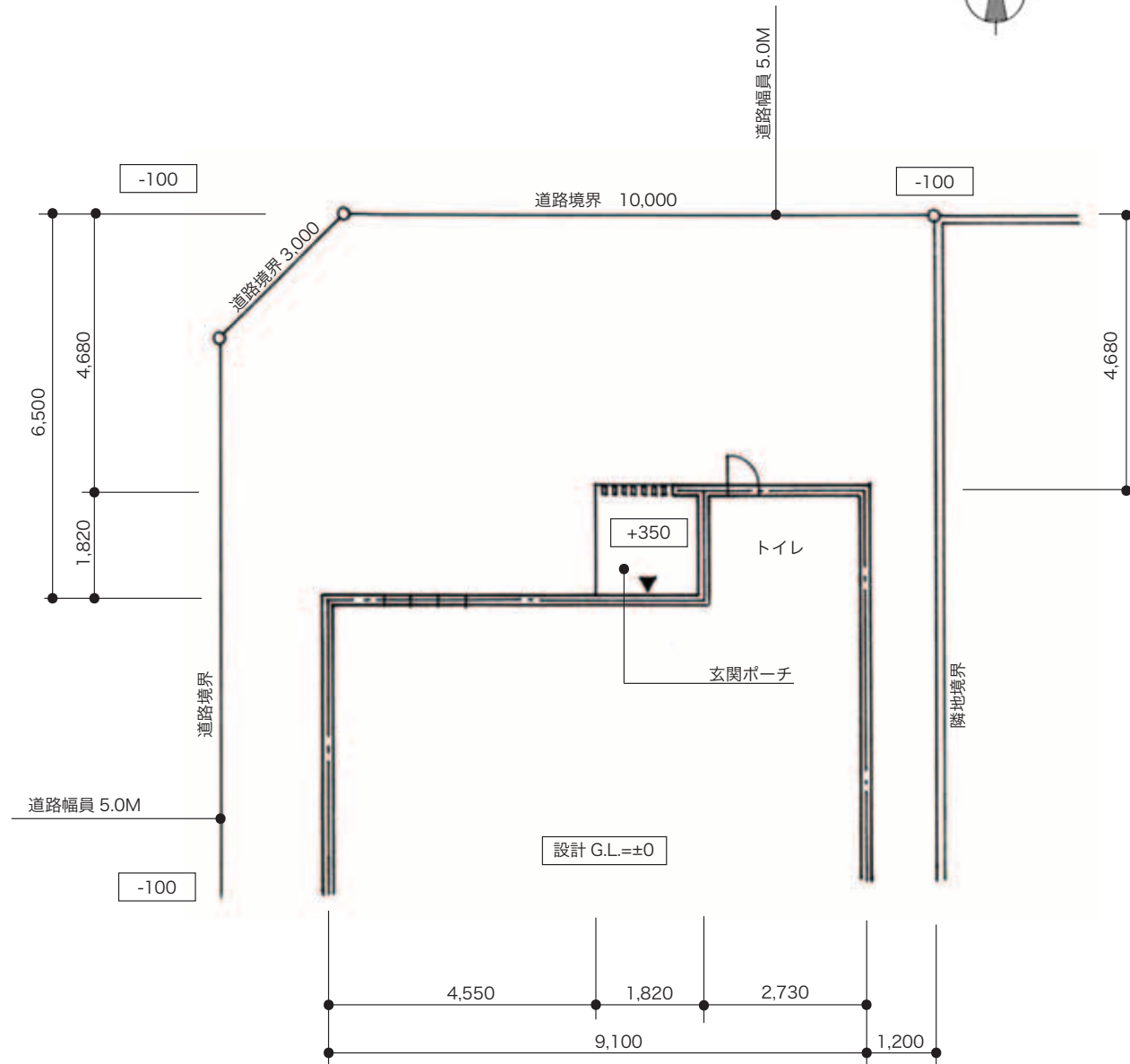


第4回目の課題について

それでは今回の新しい課題をご覧くださいませ。敷地の条件は下記の通りで、西側と北側に道路がある角地で3mの隅切りがあります。道路と敷地の高低差は100mmとなっています。

下記の敷地条件や施主の要望をふまえて、ゾーニング図・平面図・立面図（可能であればパース図）を作成し、次号の模範プランと比較できるように準備しておいてください。

1 敷地条件



2 施主の要望

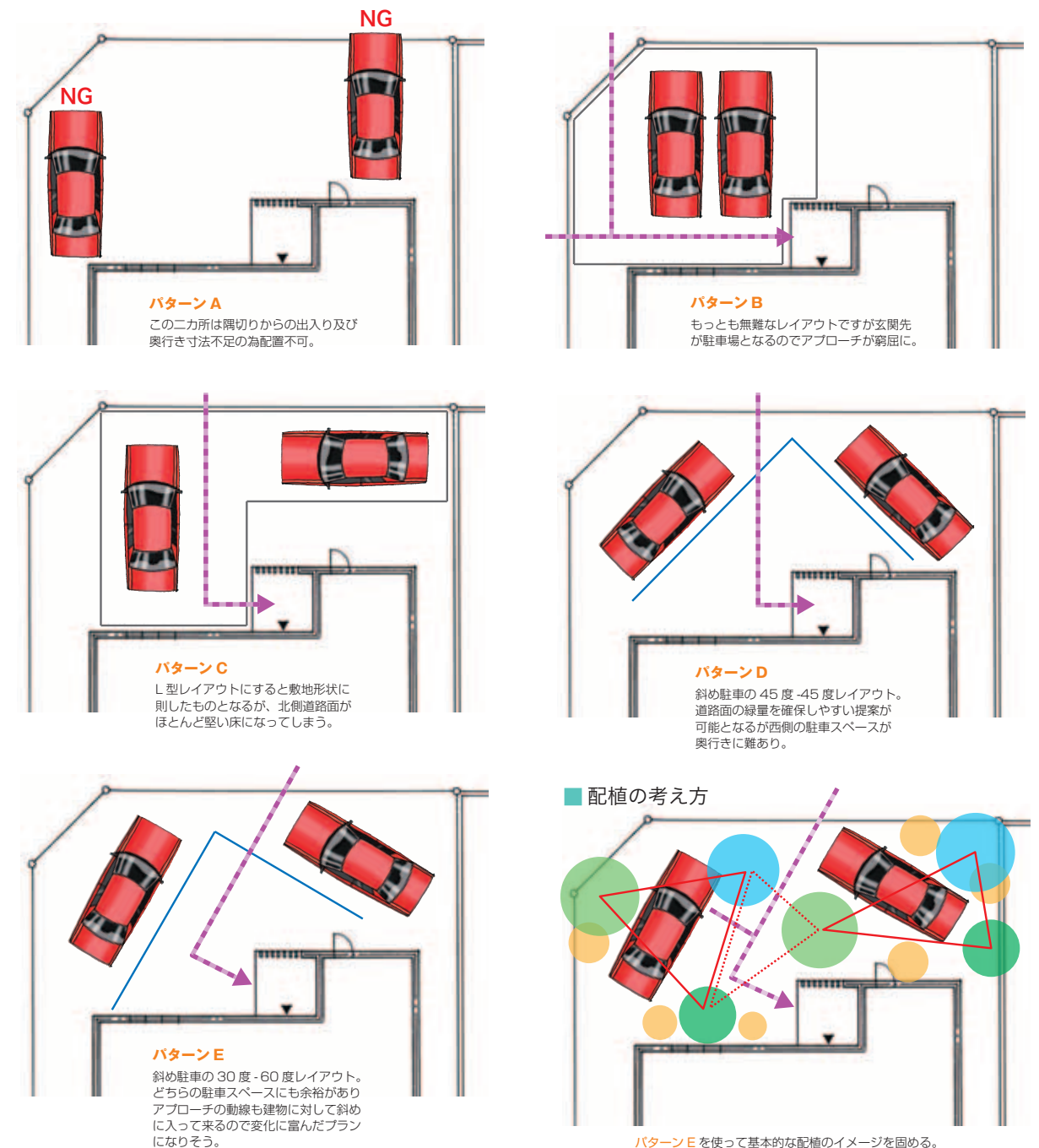
- 駐車場を2台分確保してください。
- できるだけ植栽スペースを多くして、庭の中に駐車場やアプローチがあるようなデザインを希望します。
- 玄関ポーチはG.L.より350mm高いのでアプローチに合わせてステップをあと1段追加してください。
- 地区協定で隅切り部分からの車の出入りは禁止されているので配慮してください。
- 東側道路境界はブロックフェンスを設けてください。（西側隣地境界は隣地側に既存ブロックがあります）
- 単調なプランにならないよう希望します。

「私ならこう考える！ゾーニング手順と計画時のポイント」

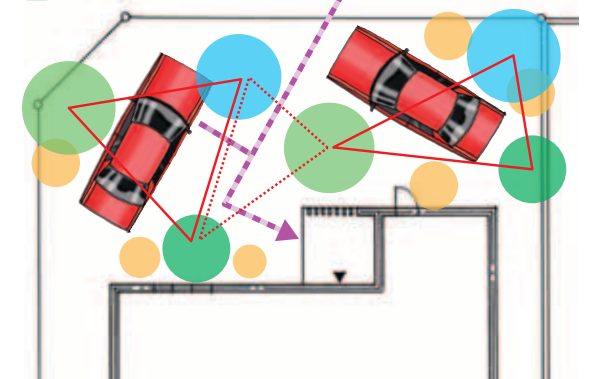
今回私がプランニングする際に、どのような事を考えているのかその一部をご紹介します。プランニングの参考にしてみてください。

■ 駐車パターンの検討

今回の課題でもっとも慎重に検討しなくてはならないのが、2台の車をどのように駐車させるかということです。車の寸法は普通乗用車で車幅が1.7m程度、全長は4.5~5.0m程度となり、さらに運転手が乗り降りするスペースもしっかり確保しておかなくてはなりません。北入りプランの多くは今回の課題のように、限られたスペースの中で無駄なくゾーニングすることが求められます。もちろん単なる土間工事だけでは他社との差別化は図れません。しっかりと植栽も組み入れた魅力的なデザインとし、街並み景観という考え方で施主の心に響く提案を考えてみましょう。



■ 配植の考え方



パターンEを使って基本的な配植のイメージを固める。基本は葉張り（樹高）の大・中・小の三本の樹をセットとして大きな三角形の頂点に植える。人や車の動線の妨げにならないことは当然であるが、さらには窓の位置や、奥行き感の強調される位置を意識して配植する。三本以上の樹が一直線上に直列しないようにすれば自然な感じになる。メインの樹木の位置が決まった後さらに小さな樹を補って全体のバランスを整える。

模範解答は次号で掲載、解説しますので、以上の事をふまえて素敵なプランを考えてみてください。